— 観 察 記 録 —

山形県酒田市飛島におけるヤマザキヒタキ *Saxicola ferrea* の 観察記録

板谷浩男^{1,*}・益子 理²

¹ 株式会社緑生研究所 〒182-0026 東京都調布市小島町 2-40-10

² いであ株式会社 〒224-0025 神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-2

(2007 年 2 月 14 日受付；2008 年 1 月 29 日受理)

キーワード：ヤマザキヒタキ，山形県，飛島

日本鳥学会誌
Japanese Journal of
Ornithology
© The Ornithological Society
of Japan 2008

Hiroo Itaya^{1,*}, Osamu Masuko². 2008. An observation record of a Grey Bushchat *Saxicola ferrea* from Tobishima Island, Yamagata Prefecture. Jpn. J. Ornithol. 57: 33–35.

Key words: Yamagata Prefecture, Grey Bushchat, Tobishima Island.

¹ Researchers and planners of Natural Environment, 2-40-10 Kojima-cho, Chofu, Tokyo, 182-0026 Japan.

² IDEA Consultants, Inc, 2-2-2 Hayabuchi, Tsuduki-ku, Yokohama, Kanagawa 224-0025 Japan.

1. 種名・観察個体数：ヤマザキヒタキ *Saxicola ferrea* 1 羽

2. 観察者名：板谷浩男・益子 理

3. 観察日時・場所：2006 年 5 月 4 日 9:05～9:30 頃に山形県酒田市飛島鼻戸崎付近 (39°11'54"N, 139°33'19"E) で、さらに 13:00～17:00 頃に、前記場所から直線距離で 600 m 程離れた高森山東の農耕地 (39°12'00"N, 139°33'23"E 付近) で観察した。

4. 観察距離：5 m～10 m，双眼鏡 (×10)・望遠鏡 (×20～60) で観察した。

5. 観察した環境：鼻戸崎付近：低木林内の小規模な草地。高森山東付近：樹林に囲まれた畑を主体とする農地。

6. 形態に関する記述：体のサイズは、同時に観察されたノビタキ *S. torquata* と比較して大きな差はなかった。頭部から背，肩羽にかけては灰色にやや褐色が混じり，黒褐色の軸斑があった。眉斑は白く，目先から頬，耳羽が黒い。初列風切は黒褐色で，雨覆の一部が白く，白斑があった。喉は白く，胸から下尾筒は灰白色。腰は灰色。尾は

黒っぽく，外側尾羽は灰白色で，足は暗色であった (図 1)。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：今回観察した個体を同時に観察されたノビタキと形態的に比較したところ，全身が褐色主体のノビタキと異なり，上面は灰褐色で，下面の喉から腹にかけて白色というヤマザキヒタキの雄個体の特徴に一致したため，容易にヤマザキヒタキと同定できた。本種には 2 亜種が記載されており (del Hoyo *et al.*, 2005)，そのうち基亜種 *S. f. ferrea* はヒマラヤからタイ北部，ベトナム中央部で繁殖し，インド北部，ミャンマー南部からインドネシア南部で越冬する。また別の亜種 *S. f. haringtoni* は，中国中南部で繁殖し，中国南部からインドシナ半島まで渡るとされている。亜種については，目視による識別は困難とされているが (Urquhart & Bowley 2003)，本個体は，分布から，従来，我が国で記録されているとされる亜種 *S. f. haringtoni* (日本鳥学会 2000) である可能性が高いと思われる。

またヤマザキヒタキの齢は，第 1 回夏羽の個体は，初列雨覆および大雨覆が幼羽のままであることと，風切や尾羽が通常は成鳥羽よりも褐色に見

* E-mail: itaya@ryokusei-ri.co.jp

図1. 山形県飛島で観察されたヤマザキヒタキ雄. 左が高森山東の農耕地, 右が鼻戸崎付近 (2006年5月4日. 撮影: 益子理 (左) 板谷浩男 (右))

Fig. 1. The Grey Bushchat observed on Tobishima Island, Yamagata Prefecture, on May 4, 2006. Photos by O. Masuko (left) and H. Itaya (right).

え, 換羽していなくてより擦り減っていることによって, 第2回夏羽の個体と識別できるとされている (Urquhart & Bowley 2003). 現地での観察時は, 上面が成鳥個体に比べるとやや褐色であること, 中央尾羽は換羽していること程度の情報しか得ることができなかったが, 後日現地で撮影した写真 (図1) を詳細に調べると初列風切や大雨覆に褐色の古い羽 (幼羽) と思われる羽が残っていた. また尾羽の換羽状況を見ると中央尾羽 (T1) は換羽を終えて新羽になっていたが, 他の部位 (T2からT6) は磨耗が激しく, 褐色が残り, 古い羽 (幼羽) であると考えられる. そのため, この個体は第1回夏羽個体と考えられる. また, 初認の鼻戸崎付近の個体 (図1右) とその後に確認された個体 (図1左) は, 共に尾羽 (T6) の磨耗具合が同様だったことから同一個体と推測した.

9. 観察した行動: 9:09に観察, 撮影した際には, イタドリ *Fallopia japonica* の生えた小規模 (50m×15m程度) の草地に立てられた高さ80cm程度の杭にとまりフライングキャッチを行い, 15m程先の杭に止まるという行動を繰り返した. 13:00過ぎに, 同一個体を再度観察, 撮影した際には, 時折農地内に立てられた杭や農地内の灌木にとまり, 地面付近の昆虫類もしくは小動物を捕

食しているようであった. 3m以上の樹上にとまることもあったが, 通常は比較的低い (0.5~2m程度) 杭や灌木の先などに頻繁にとまった.

10. 写真の有無: あり (図1)

11. 死体・標本保管場所: —

12. 過去の記録とその文献: 日本鳥学会の日本産鳥類記録委員会 (2003) によると, 本種はこれまで我が国では9例が報告されており, 石川県舩倉島での記録 (橋 1999) が最北の記録となっている. しかし, 小園 茂 (私信) によれば, 1987年5月1~2日に新潟県粟島内 (38°28'78"N, 139°14'44"E) でも観察されている.

13. その他: 5月5日には, 観察することは出来なかった.

14. 考察: 本種は, 中国大陸では北緯34°以南に分布するという (Urquhart & Bowley 2003). しかし, 飛島とはほぼ同緯度で中国大陸の天津市の東に位置するHappy Island (39°06'44"N, 118°51'15"E, 付近) では観察がある (<http://home8.swipnet.se/~w-85702/itini.htm>).

今回の我々による観察やこれらの記録から, アジア北東部において, 本種が飛島のような高緯度の地域で一時的に観察される例は, まだ増加する可能性があると考えられる.

本報告をまとめるにあたり，池長裕史氏にはご指導いただいた。五百沢日丸氏，大谷力氏，大西敏一氏，川田 隆氏，小園 茂氏，瀬川隆司氏，平泉秀樹氏，渡辺修治氏には資料の提供や個体の詳細な識別で助言をいただいた。また匿名の査読者の方々には，未熟な筆者にとっても親切で貴重なアドバイスをいただいた。それ以外にも現地で観察を共にした多くの方々に貴重なアドバイスや写真などの資料を提供いただいた。最後になるが，日本鳥学会の和文誌編集委員の濱尾章二氏には原稿についてご指導いただいた。これらの方々には，

この場を借りて厚くお礼申し上げる。

引用文献

- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (2005) *Handbook of the birds of the world. Vol. 10, Cuckoo-shrikes to Thrushes*. Lynx Edicions, Barcelona.
- 日本産鳥類記録委員会 (2003) 日本産鳥類記録リスト (3). 日鳥学誌 **52**: 126–135.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会，帯広.
- 橘 映州 (1999) 舢島の鳥たち. 橋本確文堂. 金沢.
- Urquhart E & Bowley A (2003) *Stonechats: A guide to the genus Saxicola*. Yale University Press, New Haven.